

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成19年12月～平成25年3月(5年4月)

1. 概況

平成23年3月12日に九州新幹線が全線開業した。

その効果は、開業から1年間の熊本－鹿児島中央における新幹線利用者が、514万2千人で前年同期比65%増となったほか、観光周遊バス「カゴシマシティビュー」や維新ふるさと館等の観光関連施設の利用者数も増えるなど、交流人口の増加として表れている。

全線開業により増大する交流人口の効果を中心市街地全体へ波及させる仕組みづくりとして、様々な事業を展開した。

陸の玄関である鹿児島中央駅地区では、中央町11番街区に民間による業務・ホテル・バスターミナル等の複合施設「鹿児島中央ターミナルビル」の建設工事が進むとともに、新たに鹿児島の食文化を提供する「かごつまふるさと屋台村」が着工し、ともに平成24年4月に開業予定であり、再開発ビルの完成や駅ビルの増床に続き、さらなる都市機能の集積が図られている。

天文館地区においては、シネマコンプレックス・商業施設等の複合施設「天文館シネマパラダイス」や、この建物と隣接する中央公園の地下駐車場を結ぶ地下通路の工事が始まり、5月に開業予定である。また、歴史・文化ゾーンへとつながるテニパーク通りでは、芝生などによる路面の緑化整備を行うとともに、ぴらもーる通り商店街とはいから通り商店街では、アーケード改修を行うなど、回遊性の向上を図った。

その他、全国都市緑化かごしまフェアには、県内外から96万人の人々が訪れ、まちなか会場でも多くの来街者がスタンプラリーなどを楽しんだほか、南九州最大の祭りである「おはら祭」は、60回記念大会として、会場を広げ鹿児島中央駅でのステージイベントや、市電のワンコイン料金化、ディズニーパレードの実施等により例年(20万人ほど)を超える27万5千人の観客・踊り連でにぎわった。

なお、総事業76事業のうち、32事業が完了、ソフト事業など28事業が実施中、16事業が未完了(うち2事業が未着手)である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量 (20地点、土日)	125,531 人/日 (H18年)	150,000 人/日 (H24年)	129,869 人/日 (H23年)	③	③
九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数	6,801 千人 (H18年)	8,000 千人 (H24年)	7,185 千人 (H22年)	①	①
南九州随一の中心市街地の商店街活性化	小売業年間商品販売額	209,421 百万円 (H16年)	210,000 百万円 (H24年)	平成25年度 フォローアップ予定		

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①「歩行者通行量」について

- ・基本計画に基づく事業の実施と新幹線開業による交流人口増加の効果により、計画期間内では最も多い129,869人（前年比4,768人、3.8%増）となった。
- ・集客の核となる山形屋増床事業が延期しており、空き店舗率も依然として高い状況にあるものの、新たな集客施設である「天文館シネマパラダイス」の開業（5月）や、テンパーク通りの緑化整備（3月）などにより、歩行者通行量の増加が期待できる。
- ・さらに、特産品のアンテナショップや観光案内、トイレ、休憩スペースの提供等のまちなかサービスを行う新規事業の追加も含めて、引き続き計画に取り組むことで、目標達成は可能と見込まれる。

②「中心市街地の年間入込観光客数」について

- ・新幹線全線開業前の平成22年は、口蹄疫等の影響から減少し、7,185千人（前年比145千人、2.0%減）となった。
- ・平成23年は、熊本―鹿児島中央における全線開業後の新幹線利用者数（前年同期比65%増）等を見ると、確実に観光客数が増加している。
- ・さらに、平成24年3月から、JR九州とJR西日本が新大阪―鹿児島中央の直通列車を1日16本（8往復）増やすほか、新たに中華航空が鹿児島―台湾線の定期便（週3便）を就航させるなどの追い風を生かして、引き続き計画に取り組むことで目標達成は可能である。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

- ・変更なし。

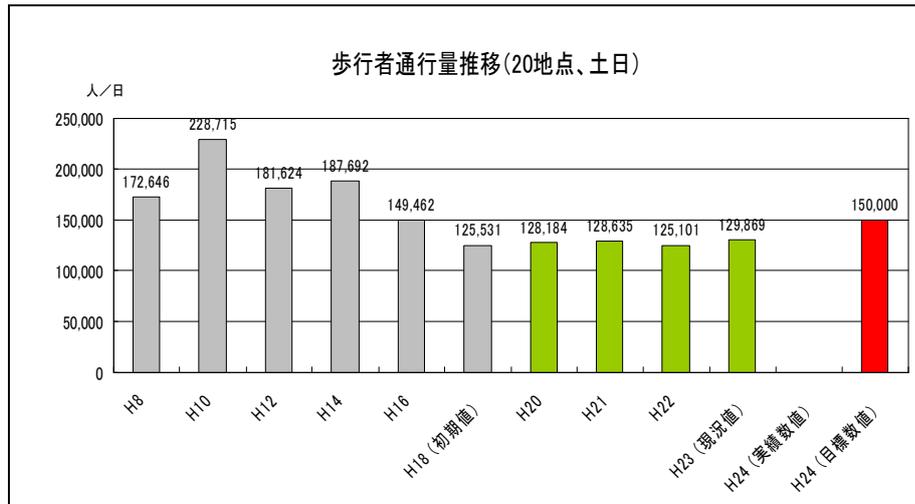
5. 今後の対策

- ・基本計画に掲げる事業を着実かつ円滑に推進するため、民間事業者と連携し、延期となっている老舗百貨店山形屋の増床事業の実現を図るとともに、新たな集客施設となる「かごつまふるさと屋台村」の整備・運営事業を追加する。
- ・回遊性の向上を図るため、観光案内など来街者の利便性向上に資するサービスを提供する街なかサービス推進事業を追加するとともに、観光資源の一翼を担う観光レトロ電車を製作・運行する事業を新たに追加する。
- ・そのほか、新幹線開業を機に都市機能の集積が図られている鹿児島中央駅周辺において、行政と事業者等との共通のまちづくりの指針となる「まちづくりガイドライン」を作成する事業を新たに追加する。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P40～P46 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	125,531 (基準年値)
H20	128,184
H21	128,635
H22	125,101
H23	129,869
H24	150,000 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

※調査月；平成 23 年 10 月調査、平成 24 年 1 月取りまとめ

※調査主体；鹿児島市

※調査対象；土・日曜日 20 地点の歩行者及び軽車両通行者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. (仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業（山形屋増床整備を含む）(株山形屋)

事業完了時期	【未】平成 23 年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床（16,000 m ² ）、イベント広場及びプロムナードの整備。
事業効果又は進捗状況	当面、急速な個人消費の回復は望めない状況にあり、現在の経済情勢では投資のリターンが見込めないため、引き続き事業の実施を延期している。平成 22 年 11 月、暫定的にイベント広場を整備し、供用を開始した。

②. (仮称) 親子つどいの広場施設整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成 20 年 2 月
事業概要	子育て中の親とその子どもが気軽に集い、育児相談、子育てに関連する情報交換等を行い、相互に交流できる子育て支援施設（614 m ² ）の整備。
事業効果又は進捗状況	親子つどいの広場については、計画の見込み利用者数 100 人/日を超える 110 人/日が利用しており、歩行者通行量の増加に寄与している。

③. 大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進（鹿児島市、実行委員会等）

事業完了時期	【済】平成21年3月（大河ドラマ「篤姫」対策推進事業）
事業概要	歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」では、大河ドラマ「篤姫」の放映効果を持続させるため、「篤姫館」を移設するなどのリニューアルを行うとともに、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”の整備のほか、ボランティアガイドによるまち歩きツアーを実施するなど、各種観光施策を展開する。
事業効果又は進捗状況	平成23年の「維新ふるさと館」入館者数は、195,081人（前年比24.6%増）となった。一方、ボランティアガイドによるまち歩きツアーに3,570人（平成23年、前年比33.6%増）が参加するなど、一定の効果がある。

④. 【追加】いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業（株天文館）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	老舗百貨店（山形屋）の増床計画に伴う敷地整序型土地区画整理事業により市が換地取得した土地等に文化商業複合施設（多目的ホール兼シネマコンプレックス、商業施設等）を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成22年度は事業計画の見直しを行い、平成23年7月に建設工事着手、平成24年5月開業予定。多目的ホール兼シネマコンプレックスは、年間27万人の入館者を見込む。

⑤. 【追加】呉服町6番街区等整備事業（株丸屋本社）

事業完了時期	【済】平成22年度
事業概要	平成21年5月に閉店した三越鹿児島店跡を取得・改修して、商業施設等（商業施設、コミュニティ施設、自走式立体駐車場）を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成22年4月に「マルヤガーデンズ」として開業した。年間来店者数350万人、年間売上高70億円を見込む。 コミュニティスペースはNPOをはじめ地域住民による各種イベントに利用され、開業2年目も来店客数等順調に推移している。いづろ天文館地区のにぎわい創出の拠点として一定の評価を得ている。

⑥. 【追加】天文館通1号線緑化整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成23年度
事業概要	天文館通1号線（天文館1丁目商店街）において、路面の一部芝生化等の緑化整備と車両の一方通行化を行う。
事業効果又は進捗状況	平成22年度：実施設計。 平成23年度：建設工事着手、平成24年3月完成。

⑦. 【追加】 冬季光の回廊事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】 平成 22 年度～
事業概要	宿泊観光客数の落ち込む冬季（12 月、1 月）における滞在型観光の推進や夜の回遊性向上を図るため、いづろ・天文館地区とウォーターフロント地区を結ぶ通り等にイルミネーションを設置し、「光の回廊」を設置する。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度は 12 月 1 日から 1 月 31 日に実施し、事業実施区間を周遊するバス「カゴシマシティビュー」夜景コースの 12、1 月の乗客数は 2,269 人（実施前の平成 21 年比 23.2%増）となり、一定の効果が表れている。

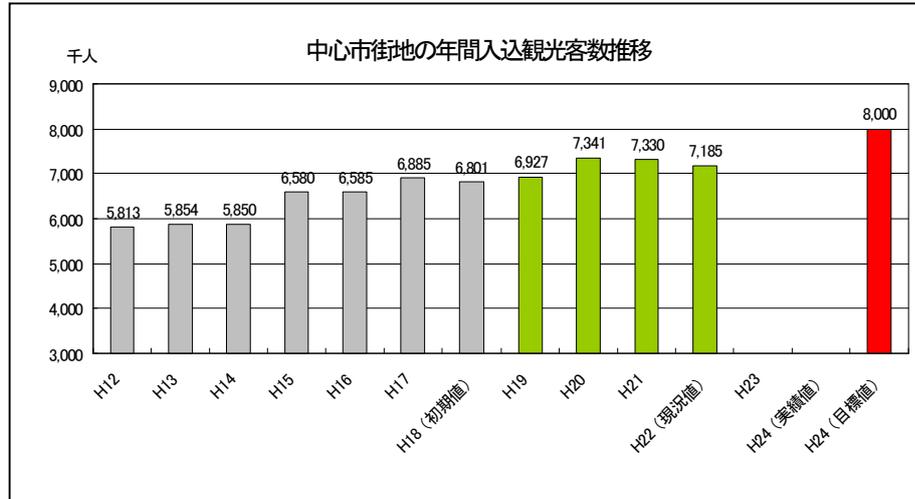
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・基本計画に基づく事業の実施と新幹線開業による交流人口増加の効果により、計画期間内では最も多い 129,869 人（前年比 4,768 人、3.8%増）となった。
- ・調査日（土日）のうち土曜日が曇り時々雨の悪天候であったため全体的に伸び悩んだほか、地点別では工事中の「天文館シネマパラダイス」周辺の歩行者通行量が減少した。
- ・集客の核となる山形屋増床事業が延期しており、空き店舗率も依然として高い状況にあるものの、新たな集客施設である「天文館シネマパラダイス」の開業（5 月）や、テニspark 通りの緑化整備（3 月）などにより、歩行者通行量の増加が期待されるため、引き続き計画に取り組むことで、目標達成は可能と見込まれる。
- ・また、平成 24 年 5 月開業予定の「天文館シネマパラダイス」周辺では、空き店舗が徐々に埋まり始めているなど、波及効果も期待できる。
- ・さらに回遊性の向上を図るため、特産品のアンテナショップや観光案内、トイレ、休憩スペースの提供など来街者の利便性向上に資するサービスを提供する街なかサービス推進事業を追加するとともに、民間事業者と連携し、延期となっている老舗百貨店山形屋の増床事業の実現を図る。

II. 目標毎のフォローアップ結果「九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興」

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方基本計画 P47～P51 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：千人)
H18	6,801 (基準年値)
H19	6,927
H20	7,341
H21	7,330
H22	7,185
H23	
H24	8,000 (目標値)

※調査方法：観光統計調査

※調査月：平成 22 年 1 月～12 月の実績を翌年 8 月に集計

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：高速、鉄道、バス、船舶等の各種交通機関利用者及び中心市街地内の宿泊施設利用者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大河ドラマ「篤姫」放映を生かした各種観光施策の推進（鹿児島市、実行委員会等）

【再掲】P4 参照

事業完了時期	【済】平成 21 年 3 月（大河ドラマ「篤姫」対策推進事業）
事業概要	大河ドラマ「篤姫」の放映効果を生かすため、「篤姫館」を設置運営するとともに、歴史観光の中核施設である「維新ふるさと館」のリニューアルや、西郷隆盛・大久保利通らの誕生地に幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”の整備のほか、ボランティアガイドによるまち歩きツアーを実施するなど、各種観光施策を展開する。
事業効果又は進捗状況	「篤姫館」には計画の 3 倍以上の 66.7 万人（平成 20 年度）が訪れ、「維新ふるさと館」には、156,572 人（平成 22 年、前年比 8.5%減）が訪れた。また、まち歩きツアーに 2,673 人（平成 22 年）が参加するなど、一定の効果があった。※平成 23 年 3,570 人

②. かごしま水族館 10 周年記念事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成 22 年度
事業概要	開館 10 周年を迎えた水族館について、イルカ水路の延長など参加・体験型を重視したシステム導入、施設の改修等を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年の入館者数は 65.3 万人（前年比 4.3%減）となった。※平成 23 年 66.3 万人

- ③. (仮称) いづろ・天文館地区商業活性化事業 (山形屋増床整備を含む) (株山形屋)
【再掲】 P3 参照

- ④. 甲突川右岸緑地整備事業 (鹿児島市)

事業完了時期	【済】平成 22 年度
事業概要	九州新幹線の全線開業に向け、市民や観光客が楽しく周遊・散策できるよう観光交流センターやオープンテラス等の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年 8 月に完成した。観光交流センターは、10 月に飲食店が開業し、供用開始以来 12 月までの来館者は 10,613 人となった。 ※平成 23 年 38,260 人

- ⑤. 【追加】よりみちクルーズ船運航事業 (鹿児島市)

事業完了時期	【実施中】平成 22 年度～
事業概要	九州新幹線の全線開業に向け、錦江湾と桜島の魅力を海上から楽しんでもらうクルーズ船の運航を行う。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年は、春・秋合わせて 12 回の試験運航を実施し、3,965 人の乗船客数となった。新幹線の全線開業に合わせ、平成 23 年 3 月 10 日から毎日運航を開始した。※平成 23 年 17,095 人

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・新幹線全線開業前の平成 22 年年間入込観光客数は、7,185 千人 (前年比 145 千人、2.0% 減) となった。
- ・これは、高速道路料金の休日割引の継続や外国人観光客の増加などがあったものの、大河ドラマ篤姫効果が薄れ、口蹄疫等の影響などがあったものと考えられる。
- ・平成 23 年は、1 月の新燃岳噴火と全線開業前日の東日本大震災による旅行自粛の影響があったものの、全線開業以降の熊本ー鹿児島中央における新幹線利用者数 (前年同期比 65% 増) や観光施設の来館者数等を見ると、確実に観光客数は増加している。
- ・この効果を定着・拡大させるため、観光案内などのまちなかサービスを提供する事業や、観光資源の一翼を担う観光レトロ電車を製作・運行する事業を新たに追加する。
- ・また、平成 24 年 3 月から JR 九州と JR 西日本が新大阪ー鹿児島中央の直通列車を 1 日 16 本 (8 往復) 増やすほか、新たに中華航空が鹿児島ー台湾線の定期便 (週 3 便) を就航させるなどの追い風を生かして、引き続き計画に取り組むことで目標達成は可能である。
- ・現在のところ、懸念されていたストロー現象などの全線開業によるマイナスの影響は表れていないが、引き続き九州の縦軸を構成する福岡市、熊本市、鹿児島市による三都市交流連携協定をもとに、3 市長が共同で関西圏や韓国等への観光プロモーションを行うなど、各市域内はもとより九州域の一体的な発展に寄与する取組を実施していく。
- ・さらに、民間レベルでも観光振興での連携を強化するため、鹿児島商工会議所が山口・下関両会議所と友好盟約を締結するなど、地域間の交流の活発化も期待される。